

日本教育学会若手育成委員会主催「若手会員のための方法論ワークショップ」参加者の募集について

教育哲学会 若手会員各位

日本教育学会では、本学会年度より若手育成委員会を新たに設置しました。若手育成委員会の任務は、学会に所属する若手研究者の方々の研究や学会活動に関するニーズを把握し、学会としての育成・支援を行うことにあります。

本年9月には、具体的な育成・支援の実施内容を検討するため、若手会員の方々にお答えいただくアンケート調査を実施しました。若手育成委員会は、この結果を踏まえ、「若手会員のための方法論ワークショップ」を下記の通り企画し、すでに日本教育学会内で募集を開始しております。企画している4つの部会のうち、「理論・思想」部会において、12月20日現在でまだ定員に余裕がありますので、貴学会からもご応募いただきたいと考えております。

多くの若手会員の方のご参加をお待ちしています。

日本教育学会若手育成委員会 委員長 本田由紀

記

- (1) 主催 日本教育学会
- (2) 日時 2017年3月11日(土) 10:00~16:00
- (3) 場所 早稲田大学早稲田キャンパス
(〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1)
全体会：16号館 403教室
分科会：(部会の詳細については別紙をご参照ください)
「理論・思想」部会(402-2教室)
「質的研究(授業研究)」部会(502-2教室)、
「計量的研究」部会(609教室)
「歴史」部会(820教室)
アクセスマップ：<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>
- (4) 参加対象 貴学会の若手会員
※「若手会員」とは、以下のいずれかに該当する会員です。
①満40歳未満
②直近の学歴に関して大学院博士後期課程(またはこれに相当する課程)に入学後10年を経過していない
③直近の学歴に関して大学院修士課程(またはこれに相当する課程)を修了後10年を経過していない
- (5) 定員 各部会につき若手会員10~15名程度
- (6) 参加費 1,000円(交通費・宿泊費・昼食につきましては、別途各自でご準備ください。)

終了後、懇親会を計画しています（会費 3,000 円）。参加申し込み時に、懇親会参加の有無についてもお教え下さい。

(7) プログラム別紙参照

(8) 申し込み 参加申し込みは、必要事項を記入の上、日本教育学会若手育成委員会のメールアドレスまで。jera.ikusei@gmail.com

件名を「日本教育学会若手ワークショップ申し込み」とし、本文に「①氏名、②所属組織・所属学会、③住所、④参加希望部会「理論・思想」、⑤懇親会参加の有無、⑥連絡先（電話番号、Eメールアドレス）」を記入して下さい。

申し込み期間は 2016 年 1 月 16 日（月）まで。応募多数の場合は先着順とします。

以上

(別紙)

日本教育学会「若手会員のための方法論ワークショップ」プログラム

1. タイムテーブル

- ・ 10:00～10:15 開会式 (403 教室)

以降、各部会に分かれる (402-2 教室、502-2 教室、609 教室、820 教室)

- ・ 10:20～10:50 参加者の自己紹介
- ・ 10:50～12:05 講師両名からの話題提供と質疑応答

テーマ例：ご自身に取り組んでいらっしゃる方法論や研究の進め方 (どのように問題設定をするか、どのようにデータや文献を探して使うか、どのように分析するかなど)

- ・ 12:05～13:00 昼食
- ・ 13:00～16:00 ワークショップ

内容例：各参加者が取り組んでいる研究や方法面での悩みなどに関して、講師からアドバイスをいただく

※各部会では、若手育成委員会の委員が司会・ファシリテータを務めます

2. 各部会の講師

- (1)「理論・思想」—講師：下司晶さん (日本大学)・生澤繁樹さん (名古屋大学)
- (2)「質的研究 (授業研究)」—講師：藤江康彦さん (東京大学)・森一平さん (帝京大学)
- (3)「計量的研究」—講師：川口俊明さん (福岡教育大学)・石黒格さん (日本女子大学)
- (4)「歴史研究」—講師：徳久恭子さん (立命館大学)・岩下誠さん (青山学院大学)

3. 講師自己紹介 (敬称略)

(1)「理論・思想」

◆下司晶

教育哲学・教育思想史が専門です。精神分析、近代／ポストモダン論、戦後教育学など、挑戦的な研究対象が多いのですが、その分、手法はオーソドックスだと (自分では) 思っています。教育哲学会と教育思想史学会で編集委員を経験した際の印象もお伝えしたいと考えています。

◆生澤繁樹

デモクラシーの政治と教育に関心があり、ジョン・デューイを中心にプラグマティズムの哲学・思想の読みなおしを行ってきました。ワークショップでは、みずからの研究を振り返りつつ、おもには哲学と思想、理論と実践のつながりやへだたりに着目しながら、教育学における理論研究の方法について考えてみたいと思います。

(2)「質的研究 (授業研究)」

◆藤江康彦

社会文化的環境としての学校における子どもや教師の学習に関心があり、これまで教室談話の生成過程に着目した授業研究を行ってきました。ワークショップでは、主にマイクロエスノグラフィーとしての授業研究の進めかたについてお話しします。

◆森一平

私は、主に小学校の「学級」における授業実践が「使われているが意識されない」方法によりいかにして組み立てられているかに関心を持ち、エスノメソドロジー・会話分析の立場から研究を進めて参りました。本ワークショップでは研究のプロセスの中でもとくに「分析」——得られたデータをいかなる方針のもと、どのように分析してきたか——に焦点を当ててお話をさせていただきたいと思います。

(3)「計量的研究」

◆石黒格

社会関係全般に関心を持っており、現在はパーソナル・ネットワークのサイズ（直接のコンタクトがある他者の数）について研究しております。ネットワーク・サイズは分布が正規分布せず、また説明変数の効果が分布全域に均等に生じないため、分位点回帰分析など、分布の中心に加えて形状の変化を検討する分析を用いるようになっていきます。

◆川口俊明

学力問題に関心があり、これまで学力格差の実態把握、学力格差を縮小する学校教育の効果等について研究してきました。ワークショップでは、次の二点について話す予定です。(1) 教育研究における量的手法の利点と注意点（質的調査との違い、調査公害について）。(2) 量的手法をどうやって学ぶか（データの入手、先行研究、ソフトウェアの選択について）。

(4)「歴史研究」

◆徳久恭子

政策決定におけるアイデアや制度の影響に関心があり、これまで戦後日本の教育行財政制度の成立と変容について研究してきました。ワークショップでは、主に教育政策、より具体的には立法過程をいかに分析するかについてお話しします。

◆岩下誠

教育を通じて国家と市民社会の関係性を考えることが、私の主要な研究関心です。これまで19世紀イギリス・アイルランドにおける教育振興任意団体の研究を行ってきました。ワークショップでは、教育史における複合体モデルの可能性と限界について、またそれを踏まえたうえで今後の教育史研究の課題をどのように考えるかについてお話ししたいと思います。